

Braintech Library Report

ブレインテック・ライブラリー・レポート

Vol.4



トヨタ博物館 図書室

独自システムから情報館へリプレイス
カタログ管理に重点を置きデータを移行

トヨタ博物館 図書室

システム変更を機に図書館リニューアル
デザイナー視点で課題を解決

土佐町立図書館

独自システムから情報館へリプレイス カタログ管理に重点を置きデータを移行

トヨタ博物館 図書室

トヨタ博物館は、トヨタ自動車株式会社の創立50周年記念事業の一環として計画され、1989（平成元）年に愛知県長久手市に開館しました。博物館は、19世紀末から現在までの自動車の歴史を展示でたどる「クルマ館」と、図書室等のある「文化館」という2つの建物で構成されています。

毎年改良を重ねて、段々と今の形に

——文化館の3階、図書室の入口に立つと、奥まで見渡せる明るい閲覧室が目飛び込んできます。入口をはいつてすぐ左手には、乗り物の絵本を集めた「のりもの・えほん・としょしつ」（以下、絵本図書室）もあり、大人も子どもも心誘われますね。

図書室はもともと、クルマ館のエントランスの近くにありましたが、20年ほど前、この建物（文化館）ができたときにこの場所に移りました。以来、この絵本図書室や24時間温湿度管理を行う貴重資料室（非公開）を新設するなど、毎年改良を重ねて、段々と今の形になりました。図書室の入口も、初めての人でも入りやすいように、カーペットや照明器具、柱の色などを変えて明るい印象にしたり、当初入口付近にあったVTRコーナーを奥に移動し、代わりにカタログとソファや丸テーブルを置きブラウジングコーナーにしたりと工夫してきました。一度にはできないので、毎年少しずつですが。



——奥の方はキャレルデスクもあり落ち着いた雰囲気でも、上手にゾーニングされているように見受けられます。

調べもので来室される方には常連さんも多く、こちらが黙っていても奥の閲覧席を目指して入ってこられます。初めての方はブラウジングコーナーで付近に置かれた自動車のカタログや自動車関連の漫画を手にとったり、絵本図書室に向かわれたりする方が多いですね。絵本図書室にはリピーターの親子連れもいらっしやいます。

博物館の展示は自動車の実物を展示したものが中心でやや大人向けかなと思うのですが、この場所があることで「小さな子ども連れでも博物館に来ていいんだ」というメッセージにもなっています。

——図書室の手前にはスタンプコーナーが設置されていました。博物館全体でスタンプラリーを実施しているのですね。

クルマ館と文化館の合わせて4か所でスタンプを押すとペーパークラフトがもらえます。このおかげで3階まで上がってきてくれる方が多くなりました。スタンプのある場所まで来ると図書室の入口が見える仕組みです。

特徴的な所蔵資料は自動車のカタログ

——図書室までの導線もよく考えられているのですね。所蔵資料についても教えていただけますか。

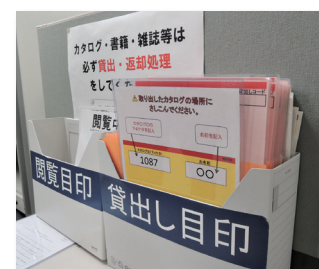
特徴的な所蔵資料は自動車のカタログです。ブラウジングコーナーに出ているのはごく一部で、ほとんどは奥の閉架書庫等に保管しています。閲覧サービスで提供しているのは主に1960年以降の国内の乗用車のカタログです。年代



別、メーカー別に車の名前がリストになったものがありますので、そこから探すこともできますが、「何年の何のカタログ」と言ってもらえれば提供できるようになっています。閲覧を希望する場合は請求票に記入してカウンターに持ってきてもらいます。

——同じ車種でも種類が多く驚きます。似たようなものが多いので利用する方も管理する側も大変なのでは？

カタログを見に来られる方は目的のものが決まっているので、あまり迷われないようです。また、最近のカタログはメーカーごとにカタログナンバーが振られているものも多いので、管理面でもそれほど苦勞することはないですね。——閉架書庫には、車種ごとにボックスに入れられたカタログがぎっしり！その量に圧倒されます。海外のものもけっこうありますね。



海外のメーカーのカタログも日本のものに負けないくらいたくさんあります。カタログは、1つのボックスに複数の年代のものが



入っています。取り出すときは、代本板のようなシートを入れて、持ち出していることがわかるようにしています。また、特に時代が古く貴重なカタログについては貴重資料室に保管しているものもあります。——貴重資料室には、他にどのようなものがあるのですか？

古い自動車雑誌や、日本の自動車史研究の第一人者で当館と縁の深い五十嵐平達氏の旧蔵書「五十嵐文庫」などを置いています。洋雑誌の中でも、1895年創刊の「Autocar」（英）は現在も刊行されており、創刊号からずっと収集しているんですよ。——今年の4月に、文化館の2階に自動車にまつわる文化資料を展示する「クルマ文化資料室」がオープンし話題になりました。



トヨタ博物館 図書室
〒480-1118
愛知県長久手市横道 41-100
TEL：0561-63-5151（代表）
<https://www.toyota.co.jp/Museum/>



同じ展示でも、実物を展示するクルマ館とは違い、ポスター、プラモデルキット、ブリキのおもちゃ、自動車切手等々に加え、カタログ、書籍、雑誌等も常設

展示しています。ここには図書室の所蔵資料を使った展示が色々あり、例えば車の雑誌広告を展示したコーナーでは貴重資料室で保管している古い洋雑誌が活用されています。



——クルマ館の大きな車の展示に比べ、こちらの展示は小さなアイテムがたくさん並んでいて楽しいですね。車そのものよりこちらのほうが好きという人も多そうです。

このほか、文化館1階にはミュージアムカフェCARS & BOOKSがあります。ここにはブックディレクターの幅允孝氏が選書したクルマ関連の本を置いています。私たち司書の選書とはまた違った面白いラインナップになっています。

汎用的なシステムに変えてどれだけカタログの管理や利用がしやすくなるか

——図書室で情報館を導入されたのは2017年ですね。

はい。以前は、独自システムを使っていたから、データの項目や分類もカタログ向けに作ったもので、それが使いやすいのは当たり前。情報館を導入する際は、汎用的なシステムに変えてどれだけカタログの管理や利用がしやすくなるかというところを一番重要視していました。

——図書とカタログでそれぞれ別の独自分類を使われていますね。



カタログは、元の分類体系を情報館の分類記号に適したものに手直しし、車のモデルチェンジごとに新しい分類を追加できるようにしました。図書も、データ入力の手当者が分類を付与しますが、迷うこともあります。結果として新しい資料を受け入れる際に昔の資料に付与した分類を直すこともあるのですが、情報館になってから一括修正の作業が楽になりました。データー一括置換はよく使っている機能の一つです。

——情報館の特長でもある柔軟な資料データ管理をうまく使いこなしていただいていますね。



その他にも学芸スタッフから「こういう資料はあるか」と聞かれたとき、さっと資料のリストを出力できるようになったのも有難いです。以前のシステムは、そういうところは弱かったの。

——館全体で図書室の資料が活用され、展示を見た人の興味関心が図書室にも向かうように工夫されているのが素晴らしいですね。本日はありがとうございました。

システム構成	基本システム (RDS) 6 ライセンス、OPAC4 (インターネット公開)
蔵書数	約 25 万冊 (図書 4 万冊、雑誌 6 万冊、カタログ 12 万冊、他)
導入年	2017年

データは2019年7月現在のものです

システム変更を機に図書館リニューアルデザイナー視点で課題を解決

土佐町立図書館

土佐町は、高知龍馬空港より車で1時間ほど走った、高知県の山間部に位置する人口4,000人程度の町です。町立図書館の運営は、この土佐町に拠点を置くNPO法人SOMAに委託されています。

図書館業務については素人でした

——土佐町立図書館とSOMAの関係について教えてください。

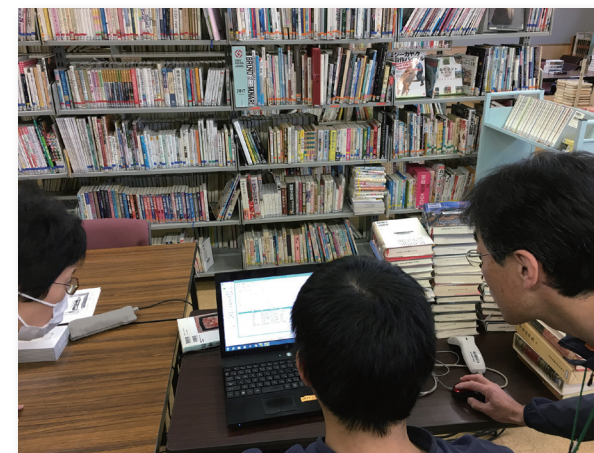
SOMAは「ひとが育つ環境をととのえる」をミッションに活動する、土佐町にあるNPO法人です。2018年4月に土佐町立図書館の運営を受託しました。

当初は図書館業務については素人で、「図書館は本を貸し出す場」ぐらいの理解しかありませんでした。入ってまず、一冊の本が貸し出せるようになるまでに、どれだけ準備が必要かということに驚きました。長年当館に勤めるスタッフに補強の仕方など一から教わりつつ、県内外の図書館の視察を重ねるうち、知識なしでは到底太刀打ちできないと痛感し、2018年10月から司書資格の勉強をはじめました。「本」「人」「場」、3つの要素すべてにおいて公共性を維持しながら運営すべきことを次第に理解し、強くやりがいを感じるようになりました。

——2018年5月に弊社にシステムについてお問い合わせをいただきましたが、図書館事業受託後すぐの時期だったのですね。

2018年度中にシステムリプレイスを行うことは、受託前に決まっていた。数社のシステム販売会社から直接お話を聞きしましたが、こちらはシステムどころか「書誌」という言葉すら知らない、わからないことばかりの時期です。情報館に魅力を感じたのは、予算感が合ったということももちろんですが、図書館業務についてブレインテックの方々に率直に相談できたことが大きかったです。

当時の図書館で困っていたのは、分類があいまいで、ベテランスタッフ一人しか資料の配架場所を把握できていないことでした。開館以来一度も有資格者の雇用がなく、体系的な分類が根付いていなかったのです。利用者を案内するときにも苦勞するなど、持続的な図書館運営への危機感がありました。



システム導入に向けての打ち合わせを重ねる中で、現状の問題点をブレインテックさんに伝えたところ、アシストグループの方がとても親身になって相談にのってくれました。たとえば当時、分類記号をテプラのイラスト文字で表していましたが、種類も増え把握できなくなっていたため、背ラベルを作り替えて配架もし直したいと思っていました。それらを行うための作業時間の算出、貼り替え手順のレクチャー、配架し直すためにわかりやすい手順などを一緒に考えてくれました。そういった協力もあって、システムリプレイスを機に図書館リニューアルに踏み切ることになりました。

また、雑然としていた書誌データも、このタイミングで一から入力し直すことにしたのですが、作業時に数人のスタッフが同時にNDLサーチからデータ取得できる環境づくりもご配慮いただき、短期間で集中してデータを作成できました。

リニューアルに向けた入念な下準備

——背ラベルの貼り替えやデータ再作成となると一大プロジェクトですね。

はじめはこんなに大変なことだとは思っていなかったんです。2万冊分の書誌作成、分類決め、配架場所整理、背ラベル



土佐町立図書館
〒781-3521
高知県土佐郡土佐町田井 1488-1
TEL : 0887-82-1800
<https://www.facebook.com/tosacholibrary/>



——以前と比べると、今の図書館は明るく落ち着く空間になっていますね。

図書館スタッフの中心に、SOMAのデザイナーがいるのですが、今回のリニューアルでは、いろいろな課題についてそのスタッフと一緒に解決策を考えることができたのが本当によかったと思います。

単に見映えをよくするというのではなく、図書館業務に不慣れなボランティアスタッフが作業中迷ったり面倒に感じたりする場面があったとき、それをデザイン的な視点から解決する提案をしてくれました。もちろん、リニューアル後に使いやすいよう利用者側から見た改善も心がけました。公共の施設ですから、若い人からお年寄りまで様々な方が利用されます。館内サインや利用案内などは、一つ一つそれを利用する方に合わせて作成・修正していきました。図書館の現場にはデザイナーの存在が必須と実感しています。

2019年4月1日リニューアルオープン

整理期間中のサービス案内について広報を徹底したことで、多くの人に図書館リニューアルについて知っていただけたという思わぬ効果もありました。2019年4月1日の再オープン後は、しばらく図書館から足が遠のいていた方も新しくなった図書館を見に来てくださいました。きれいになったと多くの方に褒めていただけた時は、ぐっときました。

リニューアルで当初の課題のいくつかは解消できましたが、まだまだすべきことがたくさんあります。様々な図書館を訪れ勉強を重ねる中で見えてきた、公立図書館として土佐町で拡充していきたいサービスを、今後もSOMAから町に提案し続けていきます。

子連れで働くことは学びと実験

——導入前の打ち合わせにお邪魔したことがありますが、小さなお子さんも同席されたことにとってもびっくりしました。

SOMAで仕事をしていると、スタッフが交代で子どもをあやしてくれます。町の人たちも子連れで仕事をする光景を見慣れてきたようで、よく声をかけてくださいます。

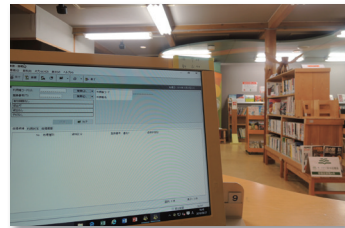
大人は職場、子どもは自宅か教育機関…それ以外の選択肢を見せてみたい、というSOMAの実験でもあるんです。血の繋がりがあってもなくても、目の前に子どもがいると、次の世代の存在を強烈に意識しながらそれぞれの仕事に向かうことになります。さまざまな世代が同じ場に存在し、それ自体が学びになる、そんな場が増えていけば嬉しいですね。



——情報館をお使いいただいていたかがでしょう。

マニュアルが充実していて、困ってもたいていのことは解決でき助かっています。情報館は自由度が高いので、システムに業務を合わせるのではなく、業務にシステムを合わせるができるのありがたいです。これからはもっとOPACを活用したいと思っています。町の情報拠点として、企画展の情報や、Web資料、町の広報などの情報もOPACにまとめていけるといいなと考えています。

——たった1年でこの居心地の良い空間をご自分たちで作り上げられたことは、本当にすごいことだと思います。今後の図書館改良計画を実現できるよう、これからもお手伝いさせていただきます。



システム構成	基本システム 1 台、 OPAC サービス（プレミアム版）（外部公開）
蔵書数	図書 2 万冊
導入年	2019年

データは2019年10月現在のものです

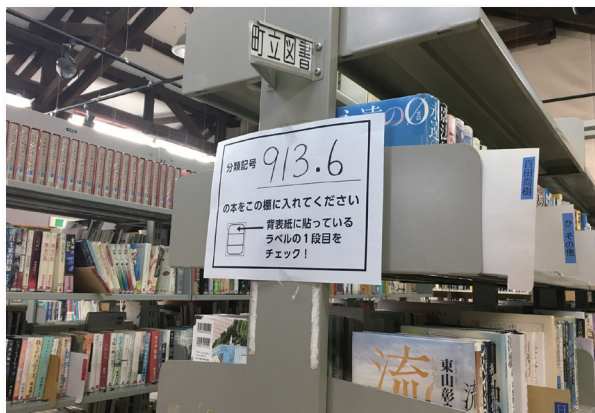
貼り……。素人だから言い出せたことかもしれません。具体的なステップを相談しながら、必要な時間を計算し、2019年2～3月を作業に当てることに決めました。2ヶ月の実質閉館です。その間も住民の方々へのサービスを継続するために、県立図書館の移動図書館図書を倍増して館内や町内のサービスポイントに配本したり、町の保育園、小学校の一般公開図書利用を呼びかけるなど、各関係機関に協力をお願いしました。また町の広報誌でそうしたサービスのお知らせを掲載するなど、事前準備は入念に行いました。

整理期間中は、アシストグループの方はもちろん、地域のアルバイトやボランティアの方たちにとってもお世話になりました。高校生～80代まで、その数30名以上。得意分野も様々なので、その日集まったメンバーを見て、それぞれに作業を依頼していきました。事前に想定していた書誌作成、ラベル貼りなど以外にも、細かく洗い出していくと、図書カードの抜き取り、背ラベル印字にカバーかけ、什器のリメイク、本棚



の高さ調整など、細かな作業はたくさんありました。日々の進捗状況の把握と作業の振り分けに一番頭を使いましたね。

部分的に閉館した状態での作業でしたので、来館者やボランティアさんのお友達が図書館に興味を持ってくださいたり、「がんばっちゃうねえ」と声をかけてくださる場面もありました。大変な作業ではありましたが、多くの方と関わることで有意義な時間でした。





図書管理システム

情報館 ver.9

中小規模の図書館に最適な
ベストセラー図書館システム

導入してからも、二人三脚で。

✓ メーカーの直接サポートだから迅速対応

開発元で、図書館システムの専門メーカーである(株)ブレインテックが直接サポートサービスを行うので、対応が迅速。
お問い合わせやトラブル発生連絡受付後の初動対応の迅速さは、多くのユーザー様からご評価いただいています。

✓ シンプルで安定したシステム

全国の中・小規模図書館で選ばれている「情報館」は、安定稼働にも定評があります。さらに、専用のバックアップツールが無くても簡単にデータのバックアップができ、万が一の復旧も容易で迅速です。

✓ データのインポート・エクスポートが自在

システムで管理しているほとんどすべてのデータ(資料データ、利用者データ、各種マスターデータ等)がアプリケーション上で自由にテキスト形式でインポート・エクスポートできます。
また、統計・帳票データのエクスポートも可能です。

✓ 時代に合わせたバージョンアップ

図書館システムの導入は、ゴールではなくスタートです。5年後、10年後も安心して快適にご利用いただけるように、新OSへの対応やユーザー様からの要望を取り入れたバージョンアップを定期的にご提供しています。



OPAC公開を手軽に、簡単に

✓ 選べるOPAC

情報館のOPACは、サーバー設置型とクラウド型からお選びいただけます。
ウェブアクセシビリティ対応、レスポンシブウェブデザイン(スマホ、タブレット表示)も好評。

✓ 小規模図書館でも安心

クラウド型なら、サーバー不要。
システム担当者が常駐していない小規模図書館様でも、安心してOPAC公開が可能です。

図書館システムにご興味のある方は
弊社ショールームにお越しください

～ 情報館オープンデーのご案内 ～

毎月1回、「情報館」や「カーリルタッチ」などの最新の図書館システムの体験をすることができる展示会形式のイベントを開催しています
<https://braintech.co.jp/event/openday>



ブレインテック・ライブラリー・レポート Vol.4

発行日／2019年11月1日

発行元／株式会社ブレインテック

〒141-0022 東京都品川区東五反田1-7-6 藤和東五反田ビル 3F

TEL.03-3449-7261 <https://braintech.co.jp/>